

博士課程教育リーディングプログラム 中間評価事後評価書面評価書(案)

委員名:

機関名		整理番号	
プログラム名称			

1. 評価項目について

(ア)リーダーを養成するための学位プログラム、体制等の構築

- ① 優秀な履修生をグローバルに活躍するリーダーへと導く一貫した学位プログラムが構築され、コースワーク等による広範かつ体系的な教育研究指導が行われたか(プログラムの最終形態の確認)
- ② 国内外の多様なセクターからの第一級の教員、メンターやTAの活用をはじめとする組織的な指導体制や、留学生・教員との関わり及び外国語の使用等によるグローバルな教育研究・生活環境が構築されたか(指導体制等の構築)
- ③ プログラム担当者、それ以外の学生の指導教員等の学内関係者のみならず、大学全体として改革理念を共有し共通理解をもって改革を推進・協力しているか(改革意識の共有)
- ④ 学生選抜、Qualifying Examination、開かれた学位審査体制など、グローバルに活躍するリーダーとなるに相応しい資質能力を保證するシステムが構築されたか(学位の質保証)
- ⑤ 外部評価により採択プログラムの検証・改善が図られ、設定した数値目標が達成されたか(PDCAサイクルの構築)
- ⑥ 経費の支出内容及び規模は適切か(経費の適切な執行)

○評価

4. 非常に優れている 3. 優れている 2. やや劣っている 1. 劣っている

○コメント(上記(ア)の各項目(①～⑥)を踏まえて優れている点、不十分な点等をできるだけ記入してください。)

(優れている点)

(不十分な点)

(その他)

(イ)修了者の成長とキャリアパスの構築

- ① 修了者がプログラムを通じ、俯瞰力や独創力等の汎用力を向上することができ、プログラムを履修したことに満足しているか(汎用力の育成)
- ② 修了者がプログラムを通じ、分野や立場を超えた多様な人的ネットワークを構築することができたか(ネットワークの構築)
- ③ 修了者が産学官民等の各界のリーダーとしてグローバルに活躍するキャリアパスにつながる就職や起業等の実績を上げているか(就職、キャリアパスの実績)
- ④ 修了者の社会での活躍状況を長期にわたり把握する仕組みが構築されたか(把握手法の構築)

○評価

4. 非常に優れている 3. 優れている 2. やや劣っている 1. 劣っている

○コメント(上記(イ)の各項目(①～④)を踏まえて優れている点、不十分な点等をできるだけ記入してください。)

(優れている点)

(不十分な点)

(その他)

(ウ)事業の定着・発展

- ① 支援期間終了後も学位プログラムの定着・発展に向けて、計画に沿った教育研究組織の再編、テニユア教員のポストの配置計画、学位審査体制の整備、学内の資金再配分計画やFD・SDの実施、教育実績の重視など教職員の評価基準の見直し等について具体的な取組が実施され、十分継続できるか。また、それに加えて、履修生が学修研究に専念できる経済的支援の定着や新しい専攻や研究科の創設など計画を上回る教育研究組織の再編等に意欲的に取り組んだか。(定着・発展のための取組状況)
- ② 産学官民等の各界の連携先機関との間で、支援期間終了後の連携の在り方等について方針が定められたか(外部連携の継続性)
- ③ 学長を中心とした責任あるマネジメント体制が構築され、学長のリーダーシップの下に採択プログラムに参画していない研究科や専攻への学位プログラムの導入など大学院全体として教育改革が進められたか(マネジメント、波及効果)

○評価

4. 非常に優れている 3. 優れている 2. やや劣っている 1. 劣っている

○コメント(上記(ウ)の各項目(①～③)を踏まえて優れている点、不十分な点等をできるだけ記入してください。)

(優れている点)

(不十分な点)

(その他)

2. 中間評価結果における留意事項等への適切な対応

○コメント(中間評価結果における留意事項等への対応について優れている点、不十分な点等をできるだけ記入してください。)

(優れている点)

(不十分な点)

(その他)

3. 大学への事前質問事項

1. ヒアリング前の現地調査の実施について

現地調査の必要の有無

- 有 (※理由と確認すべき事項を記入してください。)
- 無

現地調査を必要とする理由

現地調査において確認すべき事項 (部会にて現地調査の必要有とされた場合のみ大学へ送付)

〈プログラム責任者・プログラムコーディネーターへの質問〉

〈プログラム担当者(プログラム責任者・プログラムコーディネーター以外)への質問〉

〈現地調査時の要望〉

(※出席者、スケジュール、視察場所等への要望がある場合には、以下に記入してください。要望がない場合は、事後評価の手引きのP.●●に記載の「現地調査スケジュール(例)」に基づき実施します。)

2. ヒアリングにおいて確認すべき事項

(中間評価時の留意事項、フォローアップの指摘事項等も参考とし、書面評価で明らかにならなかった点等、ヒアリング時に大学から説明していただきたい質問事項について記入してください。)